

東京都江戸東京博物館外5施設 指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
総合調整・共通事項	○これまでの実績とともに、対象施設についての理解、各施設連携の中核的組織としての機能、財団と施設の一体的な人事交流を含む人材育成システム、一括管理による管理業務の効率化と経費削減効果、施設の課題に対する個別と相互関連両面からの対応及び都との緊密な連携と文化政策、ミッションの共有による財団運営、指定管理各施設の運営への反映等、総合的に判断して、指定管理者として適していると判断できる。 ○「未来の東京戦略ビジョン」に描かれた文化戦略の実現に向け、これまでの各館の取組を加速し、6館全体で取り組む具体的方向性が示されており、事業推進による大きな成果が期待できる。 ○都の政策への理解も十分で、都との緊密な連携体制の下で政策を着実に実行できる体制が整っている。 ○海外や国内の施設とは、共同制作や巡回展の開催など事業ベースでの連携を深め、東京からの創造発信を高めるとともに、地域の文化拠点の形成にも積極的に貢献していくこととしている。 ○「クリエイティブ・ウェル」事業（※）といった新しい取り組みについて、財団がハブとなり、各施設の強みや特性を生かし、都全体に面的な展開ができ、その効果に期待が持てる。 ○戦略的プロモーションの実施について、新たなチーム編成を行い、広報業務の専門家の登用は、多様化する広報形態に対応する上でその効果が期待できる。 ○収蔵品のオンライン化やデジタルアーカイブの構築計画と具体的な展開例が示されている。「東京都コレクション・オンライン」（仮）における各館の所蔵作品を横断的に研究、リサーチ出来るデータベースの無償公開は、量と質において高度なものとなるよう期待する。 ○それぞれの施設の収益特性に配慮した全体での財務的連携が取れる体制が確保されている。 ○今般の新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、財団全体として各館の感染拡大防止対策に取り組むとともに、デジタルテクノロジーを活用したオンライン上での積極的な事業展開を提案するなど、社会状況の変化に即した対応がとられている。	○「クリエイティブ・ウェル・プロジェクト」について、外国籍をもつ都民が多国籍化するなかで、文化を通じて人々のつながりをつくる共生社会実現をアピールする必要がある。 ○スケールメリットは非常に大きいですが、今後の施設運営に際しては、それぞれの施設の特色を無視した標準化や、画一的な管理手法が導入される組織的リスクにも目を向け、それぞれの特色を活かした発展的、持続的な事業展開を目指していただきたい。 ○戦略的プロモーションチームについて、可能であれば戦略マーケティングチームを作り、ニーズ調査や相互のお客さんの情報交換を行うなど、もう一歩踏み込んでいただきたい。 ○新型コロナウイルス感染拡大防止の観点で、今後の各施設の役割を考えたとき、財団全体、各施設の収支計画については、基本機能の維持・充実に担保する前提の上で、柔軟なマネジメントが望まれる。

※「クリエイティブ・ウェル」事業…共生社会の実現を目指し芸術文化を通して社会包摂と心身の健康（ウェルビーイング）に取り組む事業

東京都江戸東京博物館外5施設 指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
東京都江戸東京博物館	○常設展示、企画展示ともに意欲的な試みが提案されていると感じる。都市博物館として、豊富な資料や施設、機能を十分に活かした独自性のある企画は非常に魅力的。江戸、そして東京の魅力を博物館の立場から十分にアピールしていただきたい ○小・中学生、外国人、高齢者や障害者など多様な鑑賞者に向けた参加型・体験型プログラムが行われ、人々が博物館の資料や知識を享受できるよう開かれた博物館として機能している。また大規模改修工事期間を中心とする高齢者施設へのアウトリーチ事業は、今後の博物館の取組として期待できる。 ○江戸東京博物館の特性と優位性を生かして提案がされており、さらに最先端技術の活用など意欲的な取り組みが提案されている。 ○首都東京の博物館として、アジアや欧米に強固で友好的な関係を長年にわたり構築し、その発展に積極的に取り組んでいる。国内においては全国の歴史民俗系博物館のネットワークの中核としての役割を果たしている。 ○国内外の博物館、大学、民間企業との連携し、調査研究と情報交換に努めることで都民の教養、学術、文化の発展に寄与している。	○大規模改修中の休館期間も積極的な広報・情報発信を期待する。 ○都立の博物館施設としてのみならず、世界を代表する都市博物館としての充実に向け、より積極的な国際的活動・事業展開を期待する。
東京都写真美術館	○社会状況や国際動向を踏まえた調査研究に基づく、極めて質の高い展覧会を開催することで着実にその存在感を高め、多様な表現と多様な人々が出会う場所として認知され、その役割を果たしている。 ○展覧会事業を通じて、海外とのネットワークを構築し、蓄積されたリソースや経験を効果的に循環させている。 ○教育普及活動を充実させ、子供、大人、ファミリー層に加え、障害のある人や高齢者など多様な層に対して、きめ細かくプログラムがデザインされている。特に障害のある人もない人も共に参加するプログラムの在り方は、多様性理解、包括性の促進に有効な手法で評価できる。 ○最先端技術を活用したオンラインコンテンツの環境整備と配信を計画するなど、現況にあわせた柔軟な方針を打ち出している。 ○恵比寿映像祭はじめ、施設の特色を活かした地域連携の基盤も整備が進んでいる。	○新型コロナウイルス感染症の流行を踏まえ、オンラインの活用が提案されているが、写真・映像は親和性が高いと思われるので、積極的な活用を望む。また、映像活用のノウハウを他館にも提供するなど、先導的な役割を期待する。 ○ユニークな専門美術館として、世界にもより積極的なPRを展開し、国際的活動・事業展開を望みたい。

東京都江戸東京博物館外5施設 指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
東京都現代美術館	○現代美術とその周辺領域について、調査に基づく優れた展覧会の企画とコレクションの充実を図り、地域住民を含めた多様な鑑賞者に向けた取り組みを積極的に行っている。 ○最先端技術を活用したデジタルアーカイブの充実により、より広範囲かつ新しいアプローチによる現代美術の国内外への発信が期待できる。5Gの活用による取り組みへの言及も評価できる。 ○教育普及活動は、あらゆる世代に対応したプログラムを施設の特色を活かしながら積極的に展開している。在留外国人や障害のある方、また児童だけではなく、教育者への研修なども行い、総合的な教育普及を目指している。 ○地域の中核的な文化施設として、地域と協力しながらともに発展していく姿勢を示している。地域発信型の連携プログラムは、長期的な視点で継続することで、現代美術領域の振興と発展を堅実に実現するものである。 ○ユニークベニューへの積極活用、ショップ、レストラン等と連携したホスピタリティの向上、観光客への呼びかけなど、来訪動機を高める取組をしている。	○世界的な動向把握、国際的視野での調査研究が不可欠な現代美術に対する活動を深めるために、学芸職員を中心に、より積極的な海外への研修派遣等の充実を望みたい。 ○特に多様な表現形態が駆使されて成り立つ現代美術の最先端を示すためには、コロナ対策でも留意すべき課題は多く、最新技術の導入等も含めた新たな表現を美術館から発信していただきたい。
東京都美術館	○都民の美術振興を目的とする特別展や企画展、公募展に加え、教育普及活動にも積極的に取り組み、多様な層へ開かれた文化施設として、その役割を果たしている。 ○アートコミュニケーション事業については、これまで積み重ねた実績をもとに、多様なパートナーと連携しさらに大きな発展が期待できる。とくに、エイジフレンドリー&ダイバーシティ事業は、日本の美術館のモデルケースとなることが予想され、海外美術館との交流の可能性も見込まれる。 ○今後の発展的な取組についても先端技術やITを取り入れた事例など具体的に示されている。事業のさらなる広がりにつながると思われる。 ○他の都立施設との連携を前提とするコレクション展の計画にも配慮されている。 ○上野地区との連携プロジェクトも魅力的。各種事業を通じて、上野地域の連携の核となる役割を果たしている。	○アートコミュニケーション事業については、事業自体の深化とともに、一つの典型モデルとして、国内外への発信も積極的に行っていただきたい。 ○公募展の新しい意義、目的の設定も検討してほしい。

東京都江戸東京博物館外5施設 指定管理者候補者の選定理由（審査委員会議事要旨）

施設名	選定理由	今後の運営に際しての留意点
東京文化会館	○音楽、歌劇、舞踊などの芸術文化の振興のための施設として、質の高い舞台芸術の鑑賞機会を創出し、若手支援や育成、その創造成果の循環を積極的に行うことで、その重要な役割を果たしている。 ○教育普及活動が、子供から高齢者、プロフェッショナルな人材に至るまで多様な層に向けてきめ細かくデザインされている。 ○海外との連携や国内外における文化施設との共同制作などネットワーク推進を実現し、異なる鑑賞者・作り手層へリーチしている。 ○「コンビビアル・プロジェクト：共に生きるを喜ぶプロジェクト」を立ち上げ、超高齢化社会における生きがい創出や誰もが芸術文化を享受できるプログラムに取り組んでいる。認知症の高齢者やアクティヴシニアに向けたワークショップの効果を検証する研究は、高齢化社会の日本において重要な取り組み。 ○上野地区の各芸術施設、地域の関係団体と連携する仕組みがとられている。	○目指すべき姿である「音楽・舞台芸術の殿堂」の意義や役割について、コロナ禍においては、再定義あるいは更新しながら、文化施設の運営に取り組むことが重要。
東京芸術劇場	○音楽・演劇・舞踏などを中心とした文化拠点として、バランスのよいプログラム構築を行っており、「創造発信」の場として機能している。思い切った内容の公演も行っており、舞台表現の可能性を広げることに寄与している。 ○複合芸術施設としての強みを生かした提案がなされている。これまでに築いてきた国内外の諸団体とのネットワークにより、新たな芸術の創造、人材育成、国際文化交流などにおいて充実した事業展開が期待できる。 ○社会的課題の解決への貢献では、音楽やダンスの特性を活かし、かつNPO等と連携した取組によって先進事例をつくろうとしている。 ○館内外の公共空間の利活用や、最先端技術を取り入れた事業などにより、より開かれた芸術施設として、重要な役割を果たすことが期待できる。 ○豊島区をはじめ、池袋地域の様々な主体と連携し、地域の賑わい創出と芸術文化活動の活性化に寄与しようとしている。	○様々な事業が交錯する中、新しい事業や活動をどのように受け入れ、展開していくのかについては、使命に立ち返り、インフラである人的体制を踏まえた上で実施されていくことが重要。